

コシノミガイ *Pupa strigosa* (Gould)

【選定理由】

本種は内湾から湾口部の干潟から潮下帯の砂泥底に生息する。県内では内湾域の干潟から潮下帯の環境が急速に悪化していて、この生息帯の貝類相が著しく単純化している。本種も明らかに生息場所、個体数とも激減している。1999年からの3回(30地点以上)、知多半島伊勢湾側から三河湾湾口部の海域をドレッジにより調査した。その結果、知多半島南部沖の伊勢湾側で少数の生貝が採集されたが、その生息範囲は狭く、その他の海域では生貝が採集されなかった(木村, 2000; 木村, 未発表資料)。その後も同所で生貝が確認されているが、県内ではその他の生息地が見つかっていない。絶滅の可能性が高い種であると評価された。



南知多町内海沖水深7m(ドレッジ), 2000年7月27日, 木村昭一採集

【形態】

殻長約10mmで、殻は長卵形、やや厚質で光沢がある。殻表全面にやや強く粗い螺溝をめぐる。方形の灰色小斑が螺溝の間に多数並ぶ。

【分布の概要】

【県内の分布】

上述したように、生息場所、個体数が減少し、死殻は伊勢湾、三河湾湾口部で稀に採集されるが、生貝が採集される範囲はさらに狭く、個体数も少ない。

【世界及び国内の分布】

日本、南シナ海。国内では福島県以南に分布する。

【生息地の環境／生態的特性】

【選定理由】の項参照。

【現在の生息状況／減少の要因】

上述したような干潟から潮下帯の環境は悪化しているので、本種の生息場所、個体数とも激減したと考えられる。県内では生貝は透水性の高い潮下帯(水深約10mまで)の砂底に限定され、生息範囲が著しく狭い。

【保全上の留意点】

内湾の潮下帯の環境を保全する。干潟の保全や、内湾域の水質の富栄養化を防止することが不可欠である。

【特記事項】

韓国では分布記録があるが、関(2001)が本種として図示した標本は別種である。

【引用文献】

関德基, 2001. 新原色韓国貝類図鑑. 332pp. 関貝類博物館, 韓国.
木村昭一, 2000. 伊勢湾・三河湾でドレッジによって採集された貝類(予報). かきつばた, (26): 18-20.

(木村昭一)